

大 貫 一 先 生 の

お す す め 本



東アジアとわが国の歴史  
について考える一冊

## 「石光真清の手記 1～4」

石光 真清 著  
中央公論社

### この本を手にしたきっかけ

学生時代、著者の経歴に吃驚して購入。内容も期待に違わず、一気に通読しました。

### 紹介コメント

石光 真清（いしみつ まきよ）は、明治元年（1868年）熊本の士族の家に生まれ、少年時代、神風連の乱、西南戦争に遭遇。陸軍士官学校卒業後、日清戦争に参加。ロシア研究の必要を痛感、軍隊での栄達を擲って、予備役に編入、特別任務を帯びてシベリアに渡る。日露戦争時に召集を受け、復員後、東京世田谷の郵便局長などを務めるが、ロシア革命の後、再びシベリアに渡り諜報活動に従事する。

明治維新から日清・日露戦役、シベリア出兵と、動乱の渦中を生き抜いて、極東地域の平和と祖国のために一身を捧げた稀有な軍人・諜報活動家の記録。

# 大 畠 重 衛 先 生 の お す す め 本



人や社会の切り口に  
驚かされる詩集

## 「茨木のり子詩集」

茨木 のり子 著 / 谷川 俊太郎 選  
岩波書店

### この本を手にしたきっかけ

数年前でしょうか、朝日のコラム「天声人語」に紹介されていた、茨木のり子さんの詩「寄りかからず」に仰天しました。谷川さん選になる、茨木さんの詩集が文庫で刊行されたのを機に改めて読み直したところ、その他にもたくさんの驚きを体験することができました。

### 紹介コメント

詩集なので、一編一編はとても短いものです。ぜひ手にとって口ずさんでみてください。「寄りかからず」や「自分の感受性くらい」「なれる」「落ちこぼれ」「笑う能力」などなど、いろいろな「へー」や「ほー」、「やっぱりね」や「本当に」など、発見や納得そして驚きを感じることができるでしょう。

小説では、山本周五郎さんの『小説日本婦道記』『城中の霜』『さぶ』『落葉の隣』など一連の作品を推薦します。落ち込んだときや慰めがほしいときに、ぜひ読んでみてください。心を軽くしてくれるでしょう。

# 岸本秀一先生の おすすめ本



洒落た男とは  
どんなものかを知る本

## 「ヨーロッパ退屈日記」

伊丹十三 著  
新潮社

### この本を手にしたきっかけ

著者が映画監督として有名になる前、まだ俳優として活躍していたとき、私は高校生で、大阪の十三（じゅうそう）の本屋で何気なく手に取って、そのまま買ってその日に一気に読みました。

### 紹介コメント

この本は 1960年代に書かれたものであるが、全然古さを感じさせない。むしろ今改めて読んで更に著者のセンスを感じることができる。

内容は、著者が俳優としてヨーロッパに長期滞在したときの様々なことについて書かれたエッセイで、カクテル、英語の発音、スパゲッティの食べ方や作り方など多岐にわたっている。

男子学生に特に大学生の間に読んでもらいたい。

# 花田真一先生の おすすめ本



「冷静な頭脳と熱いハート」  
が感じられる本

## 「不自由な経済」

松井 彰彦 著  
日本経済新聞社

### この本を手にしたきっかけ

私の学部のゼミの先生の著作であり、同窓会に参加するにあたって予習として手に取った。

### 紹介コメント

本書は2部構成になっている。

前半は、経済現象を「人と人とのつながり」と考え、童話などにもなぞらえながらゲーム理論的な視点で解説している。この部分は同著者の「高校生のためのゲーム理論」をもう少し一般化したものとなっており、予備知識がなくとも読みやすい。

後半は日経新聞連載のエッセイ集であり、執筆時点の様々な問題を経済理論という視点から考えたエッセイであり、社会「科学」である経済学の事象論を超えた力強さと、著者の熱いハートを感じることができる。

# 佐野浩祥先生の おすすめ本



## 金沢の魅力を知る一冊

### 「高野聖・眉かくしの霊」

泉鏡花 著  
岩波書店

#### この本を手にしたきっかけ

一昨年、金沢星稜大学に赴任することが決まり、金沢という街を知るために手にとりました。

#### 紹介コメント

私たちが生活している金沢という街は、いったいどんな街なのでしょう。旅行をして、他の街と比べることで見えてもきますが、その街を題材にした文学作品を読むことで見えてくることもあります。私は、金沢を代表する作家である泉鏡花の作品を通して、金沢の魅力の一端を知ることができました。それは、「近代」が捨象してきた「あやしさ」です。数値にできなかつたり、わかりやすい言葉にできない魅力もあるのです。ぜひ、鏡花ワールドにひたってみてください。

中 村 朱 美 先 生 の

お す す め 本



「言葉には深い知恵が隠されている」  
ことに気付く1冊

## 「日本人の忘れもの 1・2・3」

中西 進 著  
ウェッジ

この本を手にしたきっかけ

「日本人の忘れもの」というタイトルにひかれて、手にしました。

紹介コメント

3冊の目次には、様々な言葉がちりばめられています。あなたの気になる言葉が、深い知恵が隠されている言葉の世界へのあなたの入口です。

# 森 延 江 先 生 の お す す め 本



気持ちがスローダウンして  
心が自由になる一冊

「Momo」  
Michael Ende 著  
Puffin

## この本を手にしたきっかけ

大学の学部生の頃、フィリピン出身の恩師が日本語版を紹介してくださいました。そして、その頃夜を徹して様々な事を語り合い、大いに笑い、楽しんだ仲間たちと一緒に読みました。

## 紹介コメント

みなさんは、きっと「モモ」を読んだことがあると思います。透き通った心を持ったモモはまるで大草原にある、枯れることのない泉のようです。空を飛ぶ鳥、流れる雲、そして人間の姿を、曇りない心で映し出します。そんなモモと、今度は英語で一緒に冒険をしませんか？きっと夢中になって本を読んでいることをわすれてしまうと思います。

# 池田幸應先生の おすすめ本



グローバルな視点から、  
自然と人間とのあるべき関係を  
示している。

## 「沈黙の春」

レイチェル・カーソン 著 / 青樹 築一 訳著  
新潮社

### この本を手にしたきっかけ

私自身、専門分野として野外教育学に取り組んでおり、約20年位前に「センス・オブ・ワンダー」という言葉に野外教育関連の研修会で触れ、本書と出会った。

### 紹介コメント

地球全体が「生物多様性」によって成り立ち、人類の生存もこれによって支えられている。本書は、今から52年前にアメリカで出版されたレイチェル・ルイズ・カーソンの主著『サイレント・スプリング』の訳本であり、まだ、人類が国際組織的に自然破壊に気付き、対応していなかった時点で、自然破壊に警告を発した先駆書として全世界に大きな影響を与え続けている。将来を担う学生諸君に是非読んでもらいたい。

石村宇佐一先生の

おすすめ本



「考える学生のための思索」  
の対象となる一冊

## 「自由からの逃走」

エーリッヒ・フロム (ERICH FROMM) 著

日高六郎 訳

東京創元社

この本を手にしたきっかけ

心理学に関心を持ち始めた大学2年生の時、「教育社会学」の授業の中で紹介されました。

紹介コメント

『自由からの逃走』は出版されて70年以上たった今も、幅広く読まれています。求めた自由からなぜ逃走するのか、この主題に対して、フロムは解放された自由を獲得したのに、孤独感や無力感におそわれる、それらに耐えきれず自由から逃走を始めるとも述べています。いつ読み直しても新しい問題を提起してくれます。

自由を今一度見つめなおしてみてもいいのではないでしょうか。

# 岩岡研典先生の おすすめ本



あ”～もう一度学生時代に戻ってやり直したい・・・  
しみじみとそう想ってしまうような1冊。。。  
だから、いま、読んでください！

## 「宇宙を目指して海を渡る MITで得た学び、NASA転職を決めた理由」

小野 雅裕 著  
東洋経済新報社

### この本を手にしたきっかけ

某ST●P細胞に関連したさまざまな出来事でアカデミアと政治・社会の現状に改めて失望し、“知識よりも見識、人材よりも人物の育成を主に・・・”という新渡戸稲造の言葉に触れた頃にHONZ (<http://honz.jp>) にて。

### 紹介コメント

グローバル化・グローバル人材などという皮相で無意味なお題目ではなく、“一度きりの人生をいかに生きるか”というひとにとっての根源的な問いに真摯に向き合い夢に向かって楽観的に努力する、そして親切に誠実に生きる筆者の姿は、“こんなはずじゃなかったのに”と自分の夢を見失いかけているひとを限りなく勇気づけてくれるでしょう。

本書で紹介されているMITハッカーの話、イタズラ心こそ創造性の源であることを改めて思い出しニヤッとできたら、あなたは大丈夫ですd(@\_\*)多分だけ。

# 直江学美先生の おすすめ本



考えさせられる絵本

## 「おまえうまそうだな」

宮西 達也 著  
ポプラ社

### この本を手にしたきっかけ

2年前、図書館での読み聞かせイベントの時に、ゼミ生が教えてくれました。

### 紹介コメント

絵本です。が、一度ぜひ読んでみてください。  
その一言につきます。

# 馬場治先生の おすすめ本



## 素直な心が蘇る詩集

### 「いのちのうた まど・みちお詩集」

まど・みちお 著  
角川春樹事務所

#### この本を手にしたきっかけ

まどさんのことは、「ぞうさん」「やぎさん ゆうびん」等の童謡によって幼少期から知っていたが、こども学科の授業で小学校国語科の単元教材として考察した際、改めてその不変不朽の価値に気付かされたから。

#### 紹介コメント

まどさんは、2014年2月28日104歳で亡くなられたが、生涯童心を忘れなかった詩人である。いずれの詩も純朴な人柄さながら生きとし生ける物への慈愛と感謝が基本にあり、生命や存在の本質を的確に観察し表現に結晶させている。ここでは、扉の風景写真に添えられた詩「いい けしき」を例示する。摂理に納得させられる。

水が よこたわっている 水平に  
木が 立っている 垂直に  
山が 坐っている じつに水平に じつに垂直に  
この平安をふるさとにしているのだ  
ぼくたち ありとあらゆる生き物が…

# 開 仁 志 先 生 の お す す め 本



こどもにかかわる人に  
読んでほしい一冊

## 「こどものころにみた空は」

工藤 直子【詩】 / 松本 大洋【絵】

理論社

### この本を手にしたきっかけ

私の尊敬する教育心理学の先生から紹介していただきました。今でも、保護者の方向けのお話しなどで紹介しています。私は私家版を持っています。

### 紹介コメント

工藤さんが、こどものころの「ひとり遊び」のように作りたかったから、1997年に私家版として出版されました。「あのころは、ことばも経験もすくなく、その思いを表現できなかつたけれど、いま、こども時代の目の高さで、当時の記憶を再現できれば、たどりつけるかも知れないなあ、たどりつきたいもんだなあ…そう思ってつくったのが、この詩画集です」「あなたの、こどものころの空には、どんな風が吹き、どんな光がこぼれていたんだろう。どうぞ、この本の中で一緒に遊んでください」と語っておられることが、紹介の全てです。

今手に入る理論社版は、その私家版に4編を加え、絵も母子で共作した詩集です。ぜひ読んでみてください。

# 上田卓爾先生の おすすめ本



近代日本観光史を理解  
するための必読の書

## 「旅行ノススメ」

白幡 洋三郎 著  
中央公論社

### この本を手にしたきっかけ

発行当初、『学問ノススメ』（福沢諭吉）をもじった、ナマイキなタイトルに惹かれた。

### 紹介コメント

細かい点では思い違いや誤りもあるが、近代日本観光史を概観するには初学者から研究者まで必読の書といえる。なぜ、従来、本学図書館に所蔵されていなかったかが不思議なくらいである。

（思い違いや誤りが知りたい方は上田に聞きに来てください）

# 川村高歩先生の おすすめ本



歴史の教科書には載らない  
歴史上の偉人を知ることができます。

「峠」(上・中・下)

司馬遼太郎 著

新潮社

この本を手にしたきっかけ

長岡藩の悲劇の代名詞ともいえる人物を、以前より興味深く思っていたので、手に取りました。

紹介コメント

司馬遼太郎といえば、『燃えよ剣』・『竜馬がゆく』・『坂の上の雲』など、近世の終わりから近代を描いた歴史小説がいくつかあります。その中であって、私が最も好きなのが『峠』です。先見性や聡明さ、行動力を持った有能な人物でありながら、最後は武士としての、長岡藩士としての宿命に殉じた河井継之助の悲劇が描かれています。西郷隆盛や坂本竜馬のような誰もが知る「スター」に勝るとも劣らない、「知る人ぞ知るバイプレーヤー」の魅力を堪能してください。

# 沢野伸浩先生の おすすめ本



福島県の放射能汚染の実態が  
1日でわかります。

## 『本当に役に立つ「汚染地図」』

沢野伸浩 著  
集英社

この本を手にしたきっかけ

私を書いたから。

紹介コメント

地理情報システムの有用さを少しでもわかってほしくて書きました。出版社の方には大変お世話になり、感謝しています。

# 谷 畠 範 恭 先 生 の お す す め 本



読み出したら止まりません。

## 「殺人の門」

東野圭吾 著  
角川書店

### この本を手にしたきっかけ

6年ほど前に、なんとなく手に取りました。その日のうちに読み切りました。

### 紹介コメント

言わずと知れたエンターテインメント小説界の巨匠、東野圭吾の作品です。どうやったら、あんな短いスパンで本を書けるのか分かりませんが、数ある東野作品の中で一番好きです。単に「おもしろい」と感じたのでおすすめします。特に、自分の意見が持てない、周りの雰囲気流されやすいという人が読めば、何かしらの気づきがあるでしょう。ただ、全体的に少し暗いストーリーなので、そこは注意が必要です。

# 松崎陽子先生の おすすめ本



視野が宇宙規模に広がる一冊

## 「幼年期の終り」

アーサー・C.クラーク 著 / 福島正実 訳著  
早川書房

この本を手にしたきっかけ

大学を卒業し、就職して3年目。希望して入った会社だが（出版社）、私が本当にやりたいのはこんな事だったのだろうか？などと悩んでいて、もともとSF好きだったし、内定を辞退した会社の本だったので、神田・神保町の書店で購入したような記憶があります。

紹介コメント

地球侵略型SFなのですが、お気楽なスペースオペラとは一線を画したストーリー。

ある日、地球は人間よりもはるかに高度な文明を持つ種族に支配される事になってしまうのですが、この占領軍の司令官、カレルレンの人物（宇宙人だけど）描写が素晴らしい。彼もまた、宇宙の支配層の下で働くいわば中間管理職なのですが、自分たちの種族よりもはるかに未熟な人間たちに注ぐ、愛情ある眼差しと苦悩！衝撃の結末と共に、自分は銀河の辺境に位置する地球で、未成熟な生き物として発展途上にある種族の一員なんだと思うと、目先のちっぽけな悩みを一瞬忘れられます。

山本航先生の

おすすめ本



ちっぽけな常識を捨てることから  
好転した事例が満載の一冊

「稼ぎたければ、働くな。」

山田昭男 著  
サンマーク出版

この本を手にしたきっかけ

「残業禁止」「ハウレンソウ禁止」など、ビジネス書に書かれている、バイブル的なマネジメントとは真逆の会社経営を実践して業績を上げている未来工業（大垣市）の創業者山田氏の講演を聴く機会があり、その手法と裏付けに説得力があったので。

紹介コメント

逆説的とも言えるタイトルですが、実際、「たいして儲かっていない大多数の会社の真似をしてもうまくいかない」というのが根本的な発想です。

がむしゃらに働くのではなく、仕事に対する考え方を見直し、働き方を変えることで成果を上げた数々の事例は、今後の自分の活動に役立つヒントがいっぱいあると思います。

就職したくなる会社のひとつになりそうですよ。

頭 川 博 先 生 の

お す す め 本



読者の心をわしづかみにし、  
一生の宝になる一冊

## 「ゼロの焦点」

松本清張 著

新潮社

この本を手にしたきっかけ

松本清張の小説のはなしをきいた20代なかばに読んだように思います。

紹介コメント

松本清張の代表作で、推理小説の傑作です。金沢と能登が舞台となり、2回映画化されました。たえず話題になる、いまや国民的な常識ともいえる娯楽本です。ストーリーの枠組みにある社会性と動機の現実性に清張の独自性が凝縮しています。

# 正木恵美先生の おすすめ本



## 泣ける一冊

### 「壬生義士伝」

浅田 次郎 著

文藝春秋

#### この本を手にしたきっかけ

2004年大河ドラマ『新撰組！』を見てから、新撰組関連の本を読みあさっていたときに出会いました。

#### 紹介コメント

岩手の南部藩出身の吉村貫一郎を主人公にした、異色の新撰組小説。貫一郎の入隊動機は、「貧しい家族に仕送りするため」。「幕府を守るため」という新撰組の志からは外れていますが、貫一郎にとっては家族が最も大切なのです。

貫一郎の死後、息子の嘉一郎が戊辰戦争で戦います。最後の方で、嘉一郎が母親への思いを吐露するシーンは、涙なしでは読めませんでした。

# 西村 貴之さんの おすすめ本



## 新しい生き方に出会える一冊

### 『「社会を変える」を仕事にする 社会起業家という生き方』

駒崎 弘樹 著  
英治出版

#### この本を手にしたきっかけ

私自身がNPO法人の常勤職員として働いていた時に、同世代の著作ということで手に取りました。非常に感銘を受け、今も自分の考え方の深い部分で影響を与えてくれています。

#### 紹介コメント

これから自分は何のために働くのか？自分の仕事は何に役立つのか？社会に貢献するとはどういうことか？そんなことを考えるきっかけになります。

「普通のおんちゃん」だった著者が、強いオモイと行動力で社会に革命を起こしていくストーリーは読みやすく、そして、とてもよい刺激を与えてくれるはずです。これからどんな学生生活を送るべきか、また、就職活動にどう向き合うか、どんな社会人になりたいか、そんなことを考えている学生にオススメです。

# 小山裕之さんの おすすめ本



## 仕事をする上で 大切なことがわかる

「かばんはハンカチの上に置きなさい」

川田 修 著  
ダイヤモンド社

### この本を手にしたきっかけ

もともとは、薬品の総合商社で営業をしていたので、営業に関する本をよく読んでいました。この本は、営業に関する書物として、インパクトのある書名だったので、なんとなく手にとってみたのがきっかけです。

### 紹介コメント

事務職にとって一瞬無関係と思える営業職ですが、営業は顧客との信頼関係を築き、いかに顧客のニーズに応えるかが大切であり、それは、事務職にも大いに関係しています。自分の立場で顧客と想定できる人は誰か。と考えたとき上司、同僚、部下も顧客と捉えることができます。物を売ることが営業職の仕事で重要なのではないということに気付きます。営業の心得は、事務の仕事だけではなく、いろんな仕事にも役立ちます。この本は、仕事をする上でも人としても大切なことに気付かせてくれる1冊です。営業職に就く人はもちろんですが、社会人となる前に多くの人に読んでもらいたいと思います。

# 末友七枝さんの おすすめ本



## やるせない一冊

「深紅」  
野沢尚 著  
講談社

### この本を手にしたきっかけ

きっかけは全く覚えていません。  
読んだのは、高校生ぐらいのとき。

### 紹介コメント

殺人事件の加害者と被害者の娘たちの話。  
被害者の娘・奏子の心理描写が丁寧で、後半はハラハラしながら読んだ記憶があります。  
じっくりと本を読みたいときにオススメです。

# 石川みどりさんの おすすめ本



## 社会学が好きになる本

「社会学がわかる事典  
読みこなし使いこなし活用自在」

森下 伸也 著  
日本実業出版社

この本を手にしたきっかけ

今年5月に図書館で見つけました。

紹介コメント

本の紹介に「社会学のエッセンスをコンパクトに凝縮した、楽しく手軽に読める本」とあります。

どこから読んでもOK、ちょっとした空き時間を活用できる本です。

社会学とはどんな学問なのか、社会学全体の基本的な知識や考え方、そして、社会学の歴史も分かりやすく書かれています。